

第4回 北海道新幹線倶知安駅周辺整備
推進委員会 くとさんパークあり方検討部会
開 催 報 告

1 日時

2022年3月25日（金）17:00～18:00

2 場所

倶知安町役場 2階会議室

3 議事

○旧国鉄鉄道遺産の承継方法について … 資料

（植田係長）

・（資料に基づき説明）

（矢吹部会長）

- ・本部会の成果として、北海道新幹線倶知安駅主変整備推進委員会に方向性を示していかなければならない。前回までの協議内容を整理したうえで、現物を残す「移設保存」と、現物を撤去する「記録保存」の2つに絞り込んでいる。
- ・この町の鉄道の歴史を残していくには、どのような形が良いのか。

（千坂部会員）

- ・転車台を残すとなれば、この町では雪の問題を解決しないといけない。雪に埋もれてしまい、何もわからない期間が長いのではないかと。2～3年ごとに塗装も必要になり、かなりの費用がかかると思う。今まで新幹線駅ができた場所で、鉄道遺産を綺麗に残している例は少ないと思う。将来に多額の負担を残すと大変だと考えている。

（矢吹部会長）

- ・何をするにも経費はかかる。施設に上屋をかければ通年対応も可能であるが、難しい面もあるだろう。既存施設（現ホーム）の屋根を使うという手法もあるかもしれないが。

（鈴木部会員）

- ・どちらかと言われれば、「記録保存」になってしまう。費用が違いすぎる面もある。
- ・「歴史」を教育として活かせるかどうかには尽きると思う。歴史教育に繋がれば良い。夢としては現物保存だが、現実的には撤去して記録を残していくことかな、と思う。

（矢吹部会長）

- ・どのような残し方であっても、記録～記憶に残ること。町の責務として必要なことである。

- ・現物が与える力というものは大事。一方で新聞報道であったように、町の財政状況は厳しい。最小限の費用で最大限の効果を取るか、事業の中の一つとして組み入れて進めていくのか、どう考えるか。

(宮武部会員)

- ・移設して現物を残すか、撤去して記録を残すかと考えた時、半年しか現物を見れないのは大きい。加えて維持費がかかっていく。
- ・この転車台について、将来興味を持った人が、すぐに調べられる、ちゃんとわかるような残し方が大事かと思う。いろいろアイデアを出していければと思う。
- ・いろんな技術を使った「記録」で「記憶」に残すことも大事ではないか。構造などの「記録」、ワンダーキッズなどの取組みで「記憶」に残すことの両方が大事だと思う。歴史と記憶と情報を繋げていくことは、現物がなくてもできる取組みがあると思う。

(矢吹部会長)

- ・しっかりした調べ方が必要。転車台はあまりに情報が少ないが、知識がある人・知っている人(研究者など)は必ずいる。

(小田桐学芸員)

- ・どの情報が正しいかはわからないが、鉄道に詳しい方々が、個人でHPなどで発信しており、その中に転車台の話もある。一つの糸口にできるかもしれない。

(矢吹部会長)

- ・道内博物館の学芸員で詳しい人も何人かいる。その方々の知識と、調査した成果を合わせて、データを積み上げ、保存することが大事である。

(柏谷部会員)

- ・記録として残していくことが大事かと思う。この部会に参加するまでは、鉄道の歴史(ロクさん像や駅看板など)をまとめて、「モノ」を残す形で、展示するような方法もイメージしていた。部会での議論が深まっていく中で、転車台から鉄道、高田緑郎氏や農業など、歴史が全てが繋がっていくものと感じた。
- ・ただ単に「モノ」を置くだけではなく、「活かし方」を考えつつ、「記録」を知識のある方がいる間に、聴きだす作業を早くやらないといけない。
- ・新しい新幹線駅に歴史を残す「記憶保存」も大事だと思う。

(矢吹部会長)

- ・親会となる北海道新幹線倶知安駅主変整備推進委員会への報告としては、
「何らかの形で『残す』」
「多数の意見としては、『現物保存に拘らず記録を残していく』」
「記録を残す際には、しっかりと調査をして残すこと」

- ・知識のある人は高齢化してきたおり、早めに話を聴くことが必要。
- ・転車台を核として、鉄道の歴史をどう残していくか。写真を撮って、壁に貼って…だけでは薄っぺらいものしか残らない。
- ・しっかりと調査するのはもちろんのこと、町の人々が記憶を残していくことも大事。具体的に組み立てる活動を積み上げ、後世に残していく方法が大事である。
- ・「精査して記録を残す」ことに加えて、現段階では移設保存の可能性も併記して良いのではないか
- ・JRとの用地協議などに盛り込んでいき、現実的ではないが可能性はあるという流れか
- ・ニセコ鉄道遺産群も、フォトスポットしての人気もあるようだが、やはりこのエリアの「雪」は大きな課題…降雪の少ないエリア（例：京都府福知山駅）のような残し方はできない。現物がなくても、後から歴史を調べやすい「残し方」＝「活用のしかた」が大事。
- ・インターネットでも知識を増やすことはできるが、限界がある。知識がある人、これからの子供たちと共にどう繋げていくかが大事だと思う。

（鈴木部会員）

- ・「記録保存」の手法をとることで、楽をするということにはならない。現物保存の場合もそうだが、相当な労力をかけて対応していかないと良いものではない。日本一の記録保存が見られるような仕組みを考えていかなければいけない。

（矢吹部会長）

- ・転車台にはそれだけの付加価値がある。「町の財政状況が厳しいから」という理由で、記録保存に重きを置いているわけではないことは、明記しておいてほしい。
- ・「しっかりと残しましょう」ということ。本町学芸員も大変だが、庁内で連携して対応、検討をお願いしたい。

4 その他

（清水まちづくり新幹線課参事）

- ・4回にわたり開催、大変貴重な意見をもらった。歴史の大事さを改めて確認したところである。
- ・本部会の方向性を北海道新幹線倶知安駅主変整備推進委員会に繋ぎ、あり方を深めていく。

5 あいさつ

（遠藤まちづくり新幹線課長より挨拶）

6 閉会

以 上